

私は情報科の教育実習を行わせていただきました。実習校は落ち着きのある生徒が多く、授業内外どちらも積極的に活動している生徒も多いという印象です。また、学校として Google for Education の事例校にもなっており、生徒・教員ともに ICT の活用に力をいれています。そして、新型コロナウイルスの対策も学校全体で行っています。アルコール消毒をはじめ、昼食時に 20 分間の黙食を徹底し、感染予防に努めています。しかし、当初予定されていた体育祭が緊急事態宣言の延長を受けて中止となってしまい、実習期間は通常授業の時間割となりました。

授業では 2 年生 1 組～9 組の 9 クラスの情報科（社会と情報）を担当し、ホームルーム教室では 3 年生の学級を担当させていただきました。また、登校時の駐輪指導や朝学、昼食時の黙食指導、SHR や下校指導などを実習しました。

私が特に力を入れた点は 2 点あります。1 点目は挨拶です。担当に関わらず全ての学年の生徒と関わることができる時間ということもあり、駐輪指導や下校指導、廊下ですれ違ったときなどのタイミングで必ず生徒に挨拶をすることを心掛けました。徹底していると挨拶が生徒とコミュニケーションを取るための第一歩になると感じました。2 点目はホームルーム教室の生徒の名前を覚えることです。名前を覚えることも生徒とコミュニケーションを取るためには必須となるので、いち早く覚えようと努力しました。読みや名前と顔を完全に一致させるには数日かかってしまいましたが、それでも会話する際に「〇〇さん」と呼ぶと、「名前覚えてくれたんですね！」と喜ぶ生徒もいてくれたり、反応を示してくれると、名前で呼ぶことは想像以上に大切だと実感しました。

授業では、社会と情報の「情報の表現と伝達」を扱い、生徒が各自「わたしのおすすめ」について Google スライドを用いて、プレゼンテーションを作成するという授業内容を扱いました。〇〇高校では Chrome book を生徒それぞれが所持しているため、Google Classroom を活用することができました。そのため、授業では、「全体で解説する内容」「Google Classroom で補助教材として載せておく内容」と区別して扱うことを意識しました。例えば、全体ではプレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションの流れなどを解説し、Google Classroom ではスライドの具体例や Google スライドの使い方などの教材を生徒に共有しました。また、授業を行い見つかった問題点は、すぐに改善するように徹底しました。マイクを使用していない時に声が後ろまで届いていなかったり、実施してみると生徒の学習活動が一辺倒になってしまうような問題点が見つかったので、そうした問題をはじめ、話す内容の順序や言葉遣いの一つ一つ、机間指導での声掛けなど細かな自分の動きを改善もしました。

ホームルーム教室では、情報科の授業は行いませんでしたが、朝の 5 分間学習を行う朝

学、総合的な探究の時間、LHR、SHR、清掃活動に参加させていただきました。3年生のクラスのため、進路に関して関心や不安のある生徒が多かったです。そのため、進路と関わって、相談や自己開示をしながらコミュニケーションを取ることができました。体育祭があれば、より深く関わることもできたかもと考えると少し残念ですが、それでも放課後にも残っている生徒と会話をすることができ、楽しく、学びのあるかけがえのない時間でした。

実習をしたことで、予想外の教員の努力を知ることができました。例えば、自分が生徒の時には何気なく返されていたプリントも、教員の立場になると約40人×9クラスを全て用意して、返却されたものに目を通して、評価し、判子を押して返すという作業は決して簡単なものではなかったです。また、欠席した生徒が出来るだけ不利益のないようにする環境整備にも少し苦労がありました。欠席情報の管理からプリントや資料の配布を次回までに必ず行うことを徹底しました。このように、教員が管理や気配りをしなければならない場面は多いですが、それらの努力はすべて生徒の成長にも繋がると感じました。

教育実習を通じて、私が最も学んだことは声掛けです。授業内の説明をはじめ、メリハリをつける場面での、声の大小、抑揚など実践を通じて学ぶことができました。また、生徒にはそれぞれの性格があるけれど、挨拶や会話など声掛けをきっかけとしたコミュニケーションを積極的にとることで、生徒が考えを整理して解決することができたり、考えがより深まったりする姿を多く見ることができました。

教育実習を終えて一番心に残っているのは、ホームルーム教室の生徒が掛けてくれた、「〇〇先生みたいな先生にいてほしい」や「先生、絶対にいい先生になるで!」という言葉で、コミュニケーションの大切さを実感するとともに、私にとっての宝物になりました。教員の苦労や困難も体感しましたが、それよりも生徒の成長を見ることが嬉しく、楽しくて、教員になりたいという想いが益々強くなりました。これからは、生徒に寄り添えるような教員になるとともに、情報科の専門的な知識を増やして、生徒が安心して授業を受けることができるような教員を目指して精進します。